



上限 200 円バス（路線バス）の試験運行【新年度予算案】

～持続可能な公共交通を目指して～

全但バス神鍋線は、利用者の減少が著しく、現行のサービス水準の維持が困難になっている。その対策として、従来の減便や路線休止ではなく、増便などの利便性向上や大幅な運賃低減による利用拡大策を考え、その効果を検証する試験運行を行う。

これは、市、運行事業者、地域、三者の協定に基づき、主体的かつ積極的な取組みにより、地域のバス交通の持続性を高める可能性を探るものである。

1. 神鍋線上限 200 円バスの試験運行

(1) 目的

公共機関であるバスでは、利用者の減少がサービス低下を招き、このことがさらに利用者を減少させるという「負の連鎖」となっている。そこで、「正の連鎖」への転換を図れるよう利用者増につながる試験運行を行う。

(2) 概要

国県の補助対象路線ではなく、市単独補助路線である神鍋線において、全但バス神鍋線の運賃の上限を 200 円とする試験運行を行う。

あわせて、現在なくなっている通学時間のダイヤを増便※するなど、利便性の向上を図り、バスの利用促進を進める。

〈神鍋線上限 200 円バスと現行との比較〉

	神鍋線上限 200 円バス (試験予定)	現 行	比 較
運行本数	12 往復 24 便 (平日)	10 往復 20 便 (平日)	2 往復 4 便増 ・通勤・通学用ダイヤ設定
大人運賃	・初乗り 150 円 (1.8 km) ・200 円ごとに 10 円を加算し、上限 200 円 ・江原駅-夏栗口以遠 200 円	・初乗り 150 円 (1.8 km) ・200 円ごとに 10 円を加算 ・江原駅-(夏栗口)-稲葉 (16.1 km) 680 円	路線上限額 Δ480 円
通学定期	・上限 200 円×2 (往復)×30 日×60% (割引率) ・江原駅-夏栗口以遠 7,200 円/月	・区間運賃×2 (往復)×30 日×60% (割引率) ・江原駅-稲葉 24,480 円/月	通学定期最大 Δ17,280 円/月

※ H20 年 10 月の他路線の休止とあわせたダイヤ改正時に、利用者が減っている朝 7 時台の通学を想定した便が減便となった。利用者減の理由は、少子化による高校生数の減少に加え、家族などによるマイカー送迎が増えたことによると考えられる。

今回の試験運行で、カットしていたダイヤを再設定し、より利用しやすくすることによって、通学者のバス利用を取り戻し、バスの利用者増を図る。



(3) 実施時期

平成23年10月1日～平成25年3月31日（予定）

※評価対象期間は、平成23年10月1日～平成24年9月30日

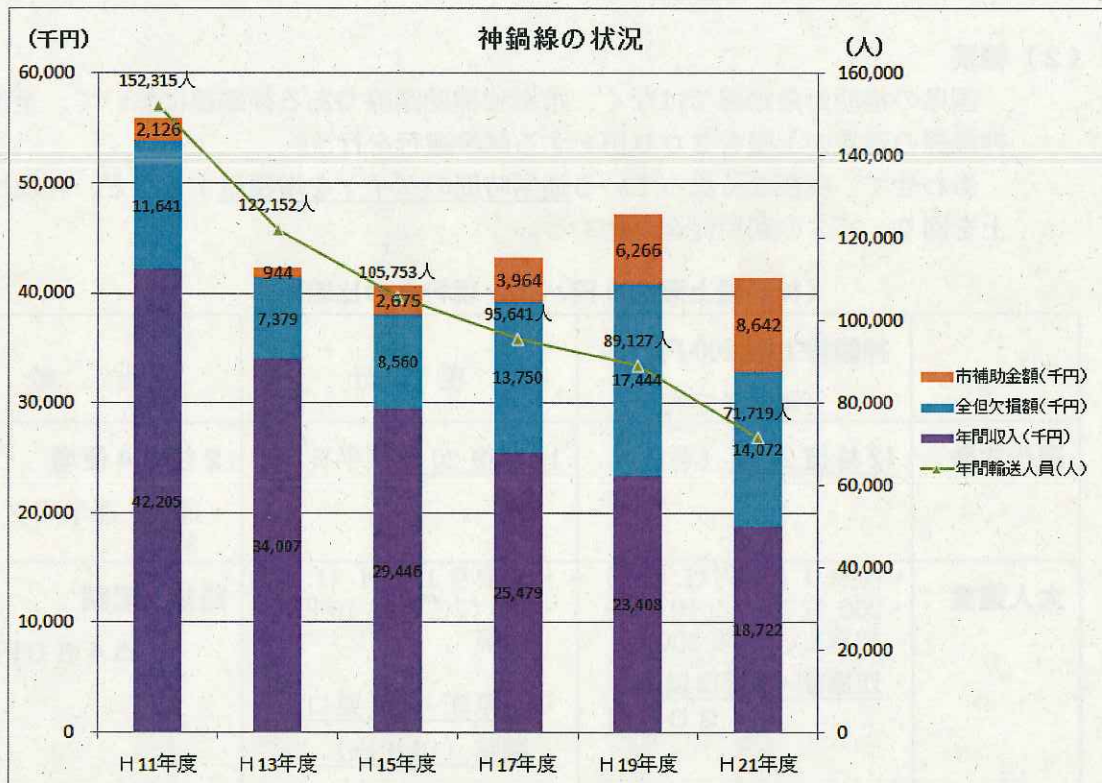
(4) 予算額

6,003千円

2. 全但バス神鍋線の現状

10年前と比較し、輸送人員や運賃収入は半分以下に落ち込み、それに伴い市補助額や全但バス欠損額は毎年増加している。

なお、長年一定のサービス水準を維持してきたが、平成20年春のダイヤ改正と10月の他路線休止時に平日4便、土日祝13便の大幅減便（各27便から平日23便、土日祝14便に）をしている。



【参考】

路線バス事業の仕組み

赤字路線においては、路線の種別により運行経費と運賃収入の差額を国と県、県と市、または市が単独で補填している。

全但バス神鍋線は、市単独補助路線であり、市が赤字部分を全額補填する路線である（万場を経由する系統は、補助申請がされていないため、市の補助なし）

運行経費	市補助金
	全但欠損
	運賃収入

<全但バス神鍋線の仕組み>



○路線とは

起点及び終点をほぼ同じくする運行単位（系統の集合体）

○系統とは

同一路線内であっても、起点や終点、または経由地などの違いごとの運行単位

3. 試験運行の評価

○効果があった場合

収入単価が安くなっても、利用者数の増加により現行の運賃収入と同程度が確保でき、結果的に市の負担軽減が図れた場合は、神鍋線における試験運行の継続や他路線への拡大も検討する。（運行事業者や地域と協議のうえ決定）

○効果がなかった場合

現行に戻すなど、再検討する。

[問合せ] 豊岡市都市整備部都市整備課 Tel.0796-23-1712



全但バス 神鍋線位置図

